

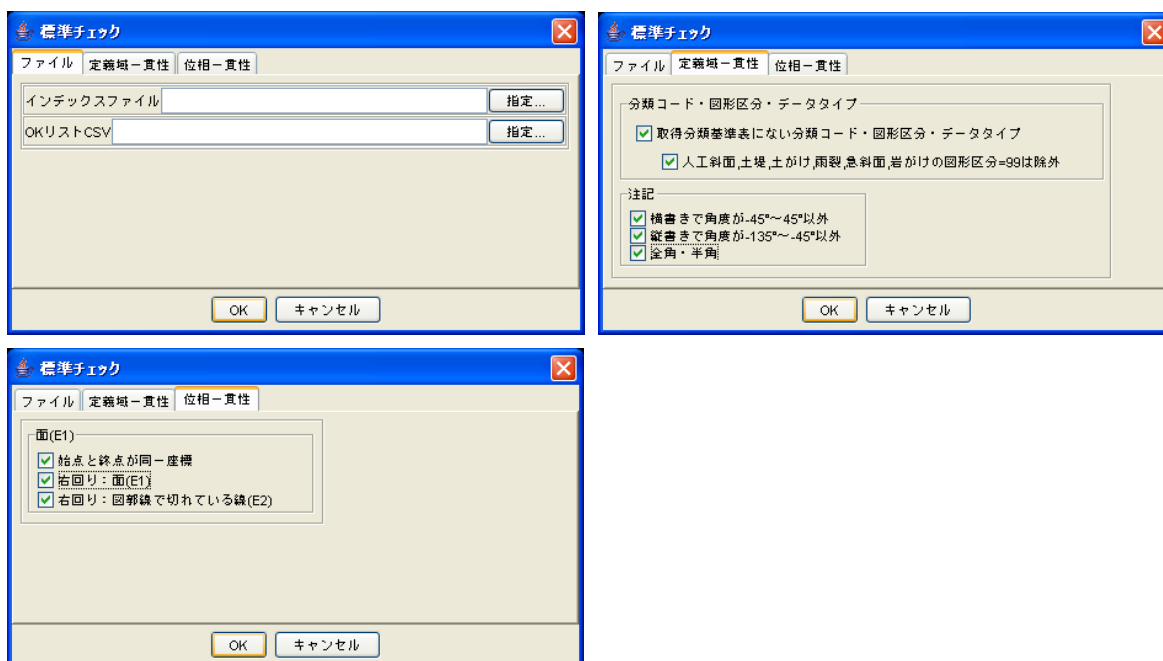
拡張 DM エディタ バージョン 2.17 更新記録

2008/09/29
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 標準チェック

[チェック]-[標準チェック]にインデックスファイルでの「使用分類コード」に対する「標準の分類コード」を参照するようにしました。また、普通建物などの面(E1)の点列の方向などのチェックを追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

作業規定の準則に明記されている内容について検査するメニューです。現在、一部の内容しか検査できませんが、順次追加していく予定です。



インデックスファイル

インデックスファイルでの「使用分類コード」に対する「標準の分類コード」について取得分類基準表の情報を参照します。インデックスファイルが指定されていない場合、DM データファイル内の分類コードをそのまま「標準の分類コード」とみなして処理します。

取得分類基準表にない分類コード・図形区分・データタイプ

作業規定の準則の取得分類基準表で分類コードに対する図形区分と分類コードに対するデータタイプ(面,線,点,方向,注記など)が定義されています。この定義に該当しない要素をリストアップします。但し、以下のケースについてはリストアップしません。

- ・普通建物など、定義は面(E1)だが、図郭線で切れて線(E2)になっている
- ・タンクなど、定義は円(E3)だが、図郭線で切れて円弧(E4)になっているケース

設定はインストールフォルダの「DMCodeType1.csv」です。ファイルの内容は「4.1.1.DMCodeType1.csv」を参照してください。変更される場合、インストールフォルダの下にフォルダ「def」を作成し、そこにコピーをおいて編集して

ください。拡張 DM エディタ起動時に、フォルダ「def」のファイルを優先して読み込みます。

DM はこのチェックの対象外です。

このチェックはもっと柔軟な対応が必要になってくると思われます。ニーズに応じて機能を追加していく予定です。

人工斜面,土堤,土がけ,雨裂,急斜面,岩がけの図形区分=99 は除外

作業規定の準則 365 ページの人工斜面などについて「補助記号は自動発生して表示」となっていますが、拡張 DM エディタでは行っていません。このチェックを ON にすると、人工斜面、土堤、土がけ、雨裂、急斜面、岩がけについて図形区分が 99 でもリストアップしません。

横書きで角度が -45° ~ 45° 以外

注記の角度(横書き)が -45 度より小さい、あるいは 45 度より大きいものをリストアップします。

縦書きで角度が -45° ~ 45° 以外

注記の角度(縦書き)が -135 度より小さい、あるいは -45 度より大きいものをリストアップします。

全角・半角

作業規定の準則の取得分類基準表(390 頁~392 頁、401 頁、407 頁)の注記の全角・半角指定に合っていない注記をリストアップします。全角から半角、半角から全角への変換は[チェック]-[注記チェック]を使ってください。

始点と終点が同一座標

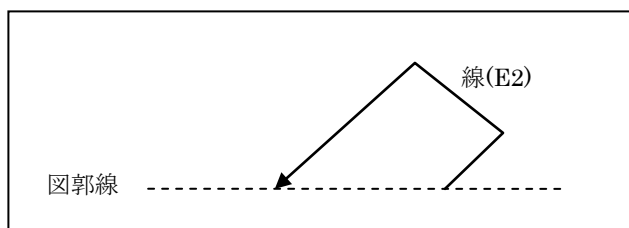
面(E1)について、始点と終点が同一座標でないものをリストアップします。

右回り：面(E1)

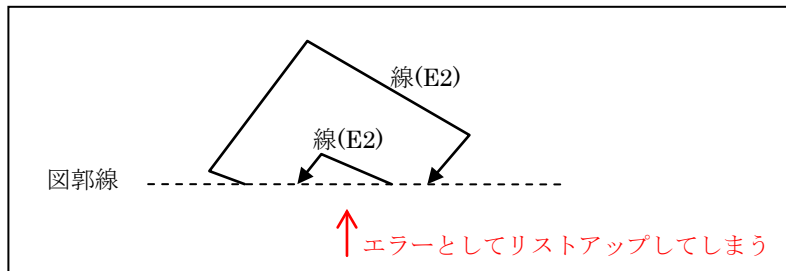
面(E1)について、右回りでないものをリストアップします。ただし、標準の分類コードが普通建物(3001)、堅ろう建物(3002)、普通無壁舎(3003)、堅ろう無壁舎(3004)の中庭線(図形区分=31)については、左回りでないものをリストアップします。

右回り：図郭線で切れている線(E2)

作業規定の準則の取得分類基準表では面(E1)と定義されている地物について、図郭線で切れて線(E1)となっている要素について、右回りでないものをリストアップします。線(E1)で図郭線の一部を切り取って仮想的にポリゴンとして、ポリゴンの面積の正負で右回り・左回りを判定しています。



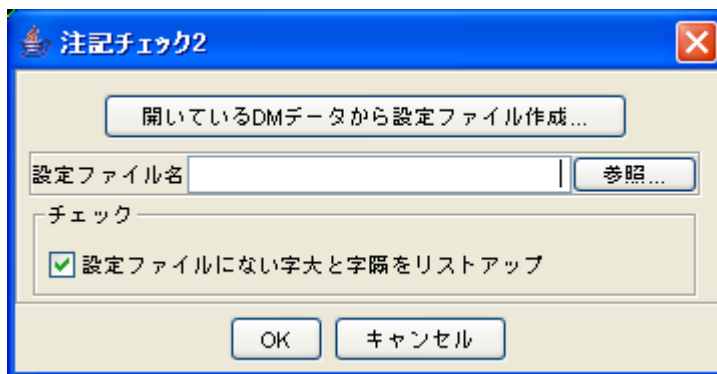
線(E1)を単体で検査しているため、下図のようにひとつの建物が複数の線(E2)に分かれているようなケースでは、正しいにも関わらずリストアップしてしまう問題があります。



2. 注記チェック 2

新メニュー[ファイル]-[注記チェック 2]を追加しました。

注記(E7)の分類コードと文字数を基準に、字大と字隔を検査します。



【開いている DM データから設定ファイルを作成】

開いている DM データからチェック用の設定ファイル(CSV)を作成します。

- ・ 1行目
ファイルの内容を識別するための行です。最初の列が「DMAnnotationTable2」で識別文字、2列目が「1」でバージョンを示します。3列目以降はコメントです。
- ・ 2行目
3行目以下のデータの項目名です。「分類コード」「最小文字数」「最大文字数」「字大」「最小字隔」「最大字隔」「個数」「名称」です。
- ・ 3行目から
注記の情報です。「分類コード」「最小文字数」「最大文字数」「字大」「最小字隔」「最大字隔」の組み合わせを指定します。「最小字隔」「最大字隔」は字隔と字大の比率です。例えば、「1/4」の場合 0.25、「1/2」の場合 0.5 を設定してください。「個数」と「名称」はなくてもかまいません。

```
DMAnnotationTable2,1,GeoCaoch3D-DM-P,DM データファイルの注記
分類コード,最小文字数,最大文字数,字大,最小字隔,最大字隔,個数,名称
8111,3,3,45,1.000,1.000,8,町・村・指定都市の区
8114,2,6,35,1.000,1.000,8,大字・町・丁目
8115,2,3,30,1.000,1.000,2,小字・丁目
8121,1,6,30,0.267,2.000,46,道路の路線名
```

【設定ファイル名】

チェックの際の設定ファイル名を指定します。

【設定ファイルにない字大と字隔をリストアップ】

開いている DM データの注記の分類コード、文字数、字大、字隔について、設定ファイルの組合わせに該当しないものをリストアップします。

3. 函郭チェック

[チェック]-[函郭チェック]の「函郭外」に方向(E6)のチェックを追加しました。